

平成 30 年度授業改善プランの検証

取組における成果と課題

- ・ものづくりにより興味・関心をもたせるため、プレゼンテーションソフトを活用して視覚的に分かりやすい授業を展開できた。
- ・ものづくりに興味・関心があるため、ほとんどの生徒は進んで取り組んだ。作業を分かりやすくさせるため、作業工程を動画で説明できるようあらかじめ録画し、生徒が確認できるような視覚教材を作成した。また実際に工具を使う機会を増やし、実践を通して使い方を習得させることができた。
- ・ものづくりで学んだ知識を日常生活に生かせるように、指導を今後も継続させていく必要がある。実践的、体験的な学習を重視した授業を行うことで、基礎的・基本的な技術の習得を目指すことが重要であり、主体的、対話的な深い学びにつなげていく。

技術・家庭科（技術分野）の授業改善策

<関心・意欲・態度>

作業の安全について、具体的な例を基に実際の作業を通して興味・関心をもたせる。また授業内容を振り返らせるため「まとめノート」を作り、学期ごとに区切りを付け次の学習のステップにさせる。また、工具の使い方など動画で分かりやすく説明するなど視覚教材を活用する。

<思考・判断・表現>

作品製作では、各自の創意工夫が表現できる課題を設定する。課題に応じて、工夫しているか、各自の創意工夫を評価する。

また表現では、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、他教科の横断的な知識を基に、生徒の説明・論述・討論などの言語活動等を通じて対話的な学びの構築に努める。

<生活の技能>

ものづくりやコンピュータの技能を向上させるために、基礎・基本を徹底させ、技能向上を実感させて習得させる。正しく、安全に作業できるよう課題を設定し、作業ごとに評価する。

<知識・理解>

ものづくりやコンピュータの作業方法など、必要な知識の定着を、定期考査で評価する。